



第27年度 活動報告書

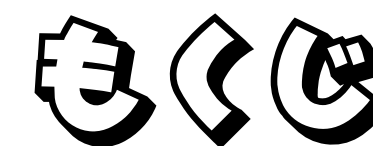
こどもと“共に育ちあう”



特定非営利活動法人
山科醍醐こどものひろば

index

はじめに	1
山科醍醐こどものひろばとは	3
27年度(2025年度)まとめ	5
決算報告	7
収益・費用	8
28年度(2026年度)計画	9
予算	10
げんきスポット0-3	11
わんぱくクラブ	12
楽習サポートのびのび	13
食材支援	14
コッペパンより	15
支援のお願い	23
アクセス・お問い合わせ	24



Introduction

はじめに

日頃より当法人の活動にご理解と温かいご支援を寄せていただき、心より厚く御礼申し上げます。多くの方のご協力により、2025年度の活動を無事に終えることができました。

「山科醍醐こどものひろば」にとって、2025年度は前身団体である山科醍醐親と子の劇場発足から45年、そしてNPO法人格を取得してから25年という、大きな節目となる1年でした。「45×25周年事業」として1年間取り組む中で、これまでの歩みを振り返り、感謝を伝えると同時に、次世代へ活動をつないでいくための新たな一歩を踏み出すことができました。ご協力いただいた皆様、事業にご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、この1年を振り返りますと、いじめや虐待など子どもを取り巻く数字は高止まりを続け、特に小中高生の自殺者数は過去最多の538人となり、大変深刻な状況があります。物価高騰も長期化し、生活困窮という子どもたちを取り巻く生活環境の厳しさをより感じる年であったように思います。現場で出会う子どもたちや保護者の声からも、そのしんどさが伝わってきます。公的な制度だけでは届きにくい「制度の狭間」を埋めることで、子どもたちのSOSや声なき声を拾い上げることができたと考えています。

このような社会情勢の中、私たちは「周年事業の実施」「活動の充実」「情報発信の充実」「運営財源の確保」という4つの重点目標を掲げて、1年間事業に取り組んでまいりました。詳しい内容は27年度まとめにてご報告させていただいておりますが、運営財源の確保という点において、7年ぶりに黒字で年度を終えることができたのは、多くの方々のご支援があったからこそです。この場でも改めて御礼申し上げます。

45年、そして25年という節目を超えても、子どもたちを取り巻く課題は依然として山積しております。これまでの歩みで得たものを大切な財産としながら、次年度も地域の様々な方と協働し、より良い地域環境、文化環境をつくってまいりたいと思います。

私たちの活動は、山科醍醐こどものひろばに関わってくれる皆様の想いによって支えられています。これからも子どもたちと共に笑顔で健やかに育ち合える地域を目指し、歩みを進めてまいりますので、今後とも応援をよろしくお願いいたします。

理事長 品田真孝



『秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行く とて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などの つらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた、いふべきにあらず。』(枕草子から)

このエッセイの著者が、京の内裏から見たのは、西山、愛宕山や嵐山でしょうか。山科の夕暮れは、なぜか西にある東山を真っ黒に染めて、空は、橙から濃紺に鮮やかなグラデーションを描きます。これから夜へと向かう眩しいオレンジの喧騒と暗い寂しさは、あはれ、を私にも感じさせるものでした。

心動かされる彩りは、生活の中にあり、ささいな日常の中にあります。私にとってのこどものひろばも、また、ささいな日常の、よくある夕暮れから、はじまるものでした。空模様を目を向ければ、日々うつろいながら、色を映して、おかしみを感じさせてくれました。耳をかたむければ、ふわり、じんわり、しっとりが響いて、とけあっていました。

またひとつの夕暮れは、どううつろうでしょうか。

山科醍醐こどものひろばが、今日も、こどもたちの、支えてくださるみなさまの、日常に小さな彩りを添えることを願って。

ひきつづき応援をよろしくお願いいたします。

理事 八島成維



私が山科醍醐こどものひろばに関わったのは、大学3回生の時でした(あれから17年)。1枚の『夏ヒマ?』と大きく書かれたチラシを持った現理事長に誘われたのがきっかけです。初めて事務所に行った時は、色々な世代のスタッフがいることに驚きを感じつつも、これから何が始まるのかとワクワクしたのを今でも覚えています。

「こどものひろば」では、サマーキャンプ・自由帳・0-3・ボラ部・町たんけん・のびのび・創作劇など様々な活動に参加しました。色々な世代のスタッフと話し合いを重ねて作る活動は、とても刺激的で、自分の中でこども観が変わると同時に“もっとこの場所に居たい”と私自身の居場所にもなっていました(会議が無い日でも事務所にいた気がします)。

「こどものひろば」での経験は、私の人生の転機となり、現在は「こども・保護者・地域」に寄り添いながら支援をする児童館で働いています。

昨年度からは、長年、監事を務めていた中尾さんから引き継いで、監事として関わらせてもらっています。

活動を客観的に視ながら「こどものひろば」について、みんなと考えていけたらと思っています。これからもこどものひろばの一員としてよろしくお願いいたします。

監事 比嘉将吾



Mission

ミッション



山科醍醐こどものひろばとは？

地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。
子どもと大人が一体となってものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ちあいたい”との願いを大切にして日々の活動をしています。
あらゆる人にとって自分らしく生きることの出来る、人との交わりを大切にします。

- 山科醍醐こどものひろばの事業（活動）は主に7つ、常に子どもたちが真ん中にいます。

例えば・・・



設立

1999年12月設立。2000年3月法人格取得。1980年に当時の「おやこ劇場・こども劇場」運動の中、京都親と子の劇場から独立する形で「山科醍醐親と子の劇場」が発足。地域に根差し、親子で文化に触れる機会を創出することに取り組む。その後、会員限定の取り組みだけでなく、より多くの地域の子もたちとともに活動を創るべく、山科醍醐こどものひろばとして再スタートして、現在46年目をむかえる。

● 理事・監事紹介 氏名（ひろばネーム）



理事
品田真孝 (しな)



副理事長
林田貴志 (ふあーびー)



常任理事
横関つかさ (よっこん)



理事
大場孝弘 (ばけさん)



理事
小辻寿規 (こつつん)



理事
梅原美野 (うめちゃん)



理事
村井彰信 (むーちゃん)



理事
八島成維 (じょうい)



理事
日高秀人 (かず)



理事
栗田佳典 (くりちゃん)



理事
中上桃子 (ぴーちゃん)



監事
米亨和 (よねさん)



監事
比嘉将吾 (ひがっち)

● 外部団体とも連携しています（一部紹介）

《公共団体》

・行政・外郭団体
・保育園・幼稚園・児童館
・小学校・中学校・高校・大学 など

《ネットワーク団体》

・山科区・伏見東 京都はぐくみネットワーク
・山科区地域福祉推進委員会
・山科区子育て支援連絡会
・山科子育て応援団
・醍醐子育て支援連絡会
・山科区ボランティアサークル連絡会
・京都子育てネットワーク
・勤修中学校学校運営協議会
・要保護児童対策地域協議会(山科区、醍醐) など

《連携団体》

・京都子どもセンター
・おとくにパオ
・子どもNPO子ども劇場全国センター
・子育てひろば全国連絡協議会
・きょうとNPOセンター
・京都地域創造基金
・京都市ユースサービス協会
・おてらおやつクラブ
・社会福祉協議会 など

27th 27年度まとめ summary

山科醍醐こどものひろばのこれまでとこれからをつなぐ1年

周年事業の実施

2025年度は前身団体から45年、NPO法人化してから25年が経過したということで、1年間を通して周年事業に取り組んでまいりました。

こどもフェスタの開催に始まり、ひろばクイズ、コッペパンコラムのバックナンバーの公開、ひろばインタビュー、JAMMINとの第3弾コラボ、冬の交流会、noteの開設など幅広く実施してきました。

5年前である40×20周年事業の時はコロナ禍と重なり、大きなイベントは出来ず、そこから続く数年の自粛と縮小により、「会う」という機会が減少しました。そのため今回の周年事業を開催するにあたってこれまでを振り返り、次の5年を考えるということをテーマとして取り組んできました。コロナ禍で薄くなり、切れつつあったつながりを、改めてつなぎなおしていくことを大切に活動してきた結果、こどものひろばについて関わる、知るという機会を創出できたように思います。このつながりなおしを次年度以降も積み重ねていきたいと思っています。

子どもの体験活動の充実

子どもの体験活動の充実という目標に対して、2025年度は、新たに日帰りキャンプを実施することができました。これまでのノウハウを引き継げず、途切れていることもあり、1からの企画となりました。作り手も未経験者が多いという中で、研修や会議を重ねながら安全に実施できる環境、体制を整えてきました。またわんぱくクラブの継続実施、こどもフェスタも開催できたことから、子どもの体験活動の充実は達成できたといえます。今後は単発の企画に終わらせず、スタッフの募集や研修を強化し、次年度以降も継続できる基盤を作っていきます。

知る、ふれる機会の充実

今年度は子どもの貧困対策事業の一環として、対面形式でのシンポジウムを開催しました。オンラインでは難しかった活発な意見交換や深い交流が可能となり、行政、社協、福祉団体など多様な専門職の方々と有意義な時間を共有できました。

また周年事業として公式noteを開設しました。これまでとこれからを発信という形でつないでいくという思いを持って開設しました。開設と同時に寄付キャンペーンを打ち出したため、子どもの貧困対策事業に関わる発信が多かったですが、スタッフの10年間の取り組みの言語化や、活動に対する思いなどをnoteを通して発信し、多くの方に知ってもらう機会となりました。理事やボランティアなどからも「ひろばと私」というテーマでご寄稿いただき、様々な視点からひろばを語ってもらうことで、外からみえるこどものひろばを知るという機会にもなりました。次年度も活用し、より多くの方にこどものひろばを知ってもらう機会をつくっていききたいと思っています。

運営財源について

7年ぶりに赤字決算を解消し、黒字化を達成しました。

収益面では、委託事業(ゆうすぺーすやましな、げんきスポット0-3の家賃補助など)の増額が大きく寄与しました。支出面では、事業拡大に伴う人件費や講師謝金が増加しています。特に人件費は、職員増と最低賃金の引き上げにより大幅な増加となりました。

また、2月末の寄付キャンペーンも黒字化の大きな要因となりました。従来の支援者に加え、noteの記事やスタッフのつながりを通じて新たに寄付を寄せてくださる方も多く、「発信」と「つながり」が具体的な成果として現れた結果となりました。

まとめ

この1年は、周年事業という枠組みもありますが、法人の運営指針として、これまでこどものひろばが積み重ねてきたノウハウや思いなどを改めて言語化していくことや、出会うという機会を創出することを大切にしてきました。様々なつながりにより支えられてきたからこそ、ここに焦点をあてつながりなおしていくことにより、次の5年へ踏み出すための一歩となりました。そして、こどものひろばが大切にしてきたことを、次の5年だけでなく、次の世代へもつないでいくことが出来ればと思います。

●ご寄付のお礼

日頃より、山科醍醐こどものひろばを応援いただきありがとうございます。

2025年度は400万円を目標に支援のお願いをさせていただいておりました。2025年度末である3月末時点で目標達成率69%となる合計278万円(※)の支援をいただきました。ご寄付いただきありがとうございました。いただいたご寄付は、法人の運営費だけでなく、子どもの貧困対策事業、周年事業の開催に使用させていただきました。

引き続き、2026年度も400万円を目標に支援のお願いをさせていただいております。2026年度もこれまで同様、子どもたちとの日常をより豊かに創造していきたいと思っていますので、応援よろしくお願いいたします。

※(公財)京都地域創造基金による事業指定寄付、物品寄付による金額も含む



旬の果物のご寄付



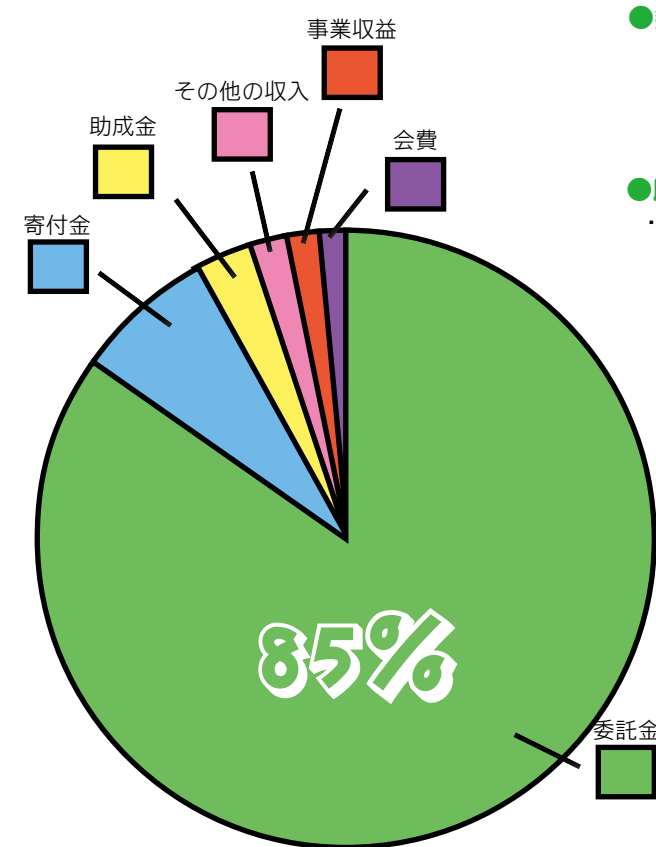
炊飯器のご寄付

収入の部		金額 (単位:円)
内訳	会費	363,500
	寄付金	1,953,947
	助成金	833,200
	補助金	0
	事業収益	417,470
	委託金	22,995,300
	その他の収入	497,377
当期収入合計		27,060,794
前期繰越金		805,671

支出の部	
当期支出合計	26,902,753
内人件費	17,498,041
次期繰越金	963,712

決算報告

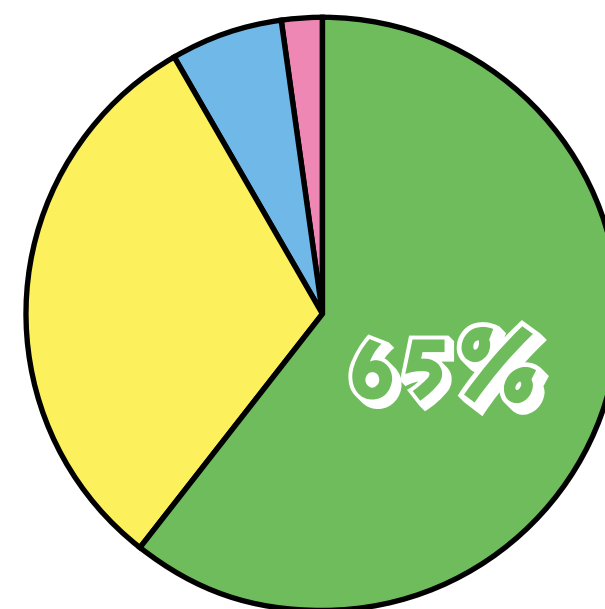
Financial statement



- 委託金
 - ・きょうとこどもの城づくり事業
 - ・京都市子育て支援いきいきセンター(つどいの広場)事業
 - ・生活保護世帯等生活困窮世帯の子どもに対する学習支援業務
 - ・山科区における子どもの居場所づくり支援業務の一部
- 助成金
 - ・公益財団法人 京都地域創造基金 事業指定助成事業

昨年度と比較して、全体収益は320万増加し、補助金を除く収益項目がそれぞれ増加している。特に委託金においては、大きく増加している。これは、委託事業の物価高騰対策や家賃の補助による増額があったためである。また、2月末に寄付キャンペーンを実施し、その金額分、助成金(京都地域創造基金の事業指定寄付)が増加している。全体的に収益が増加した結果、委託金の収益割合は88%から85%に減少している。

Revenue 収益



昨年度と比較して、260万円増加している。物価高騰の影響もあるが、引き続き経費削減に取り組んできた。しかし、エアコンの故障により、3台修理をしたため修繕費が発生し、大きく増加した項目もある。

また、人件費も昨年同様、大きく増加した。増加理由として最低賃金の上昇、職員の新規雇用のためである。人件費割合は63%から65%へと増加している。

Cost 費用

- 人件費(事業)
- その他経費(事業)
- その他経費(管理)
- 人件費(管理)

28th Plan 28年度計画

「次世代へつなぐ活動基盤の構築と強化」

昨年度は周年事業を通して、山科醍醐こどものひろばのこれまでを振り返りました。その中でこれまでのつながりを再確認し、会員や支援者、そして地域社会との信頼関係をいかに維持・発展させるかを考えてきました。そして今、私たちが取り組むべきことは、次の5年を見据え、これからをつないでいくために「次世代へのバトンタッチ」を行なっていくことではないかと思います。そのため本年度は、未来の担い手や支援者が参画しやすい環境を整えることを目標とします。

これまで積み重ねてきたものを、次の世代につないでいくために次の3項目に取り組んでいきます。

1. 子どもの体験活動の継続実施
2. 情報発信の強化
3. 継続した運営財源の確保

1. 子どもの体験活動の継続実施

コロナ禍が明けてから、事業目標の一つとして、子どもの体験活動の充実を挙げてきました。活動を再開し、少しずつ拡大をしていく。現状維持に留まった年度もありましたが、一歩ずつ歩みを進めてきました。そして昨年度は、周年事業としてこどもフェスタ、交流会の開催、夏の日帰りキャンプの実施をすることができました。また、わんぱくクラブも継続実施しています。体験活動の充実という点では、目標を達成しつつありますが、今年度は単発の実施では終わらずに継続実施が出来るように計画、実施していきたいと思います。また、今年度は町たんけんを再開予定です。子どもたちの「やりたい」だけでなく、誰かの「やってみたい」も形にできるようにサポート体制を作っていきます。

2. 情報発信の強化

昨年度noteの開設を行ないました。これまでは、寄付キャンペーンを実施していたということもあり、子どもの貧困対策事業についての投稿を多く行なってきました。今年度は、げんきスポット0-3などの各活動からも投稿するだけでなく、「ひろばと私」というテーマで様々な視点からご寄稿いただき、コンテンツを増やしていきたいと思います。情報発信を強化することによる、山科醍醐こどものひろばを知ってもらう機会を創出し、ファンの獲得をしていきます。「知る」から「支える」に移行してもらえるように多くの情報を発信していきます。

3. 継続した運営財源の確保

これまでの赤字決算により、法人の財産は大きく減少してきました。また昨年度は、決算払いに対応できる資金がなく借入が増加しています。年々拡大する最低賃金の上昇や物価の高騰に対応していくには、現状の収入、財産では追いつかない状況となっています。そのため、充実した活動を実施することで価値を生み出し、「情報発信」によってその価値を社会へ拡散し、それによって得られた「財源」を再び活動へ還元していくことにより、借入を行なわなくても、法人運営が行なえるように、財務の安定化を目指していきます。

収入の部

		金額(単位:円)
内訳	会費	363,500
	寄付金	2,300,000
	助成金	800,000
	補助金	0
	事業収益	500,000
	委託金	22,627,300
	その他の収入	614,000
当期収入合計		27,204,800
前期繰越金		963,712

支出の部

当期支出合計	27,045,143
内人件費	17,834,981
次期繰越金	1,123,369

Budget

予算

Genkispot 0-3

【参加の対象】

0～3歳児までの子どもと保護者

【感想】

つどいの広場として火曜日から土曜日の10時から16時の間に、予約なしで自由に来て自由に帰ることが出来る来やすさと一戸建ての入りやすさで自宅にいるような空間が、保護者の方にとっても気楽に来ていただける要因だと感じています。各種講座の開催や、「げんきスポット0-3」だけでなく1歳以降もたっぷり遊べる「ほんわかハウス」での活動の中で信頼関係が深まり、来館者からボランティアやスタッフになってくださる方が増えました。「げんきスポット0-3」の開設の精神を大切に、これからも来館者が安心して過ごせる場を提供していきたいと思っています。

年々育休復帰される時期が早まっていることもあり、来館者の入れ替わりが早まっていますが、第2子、第3子のママさんの来られています。保健所やはぐくみ室など行政との連携を充実していきたいと思ひます。研修の場では乳幼児の体や育ちの課題がいろいろと指摘され、育児をめぐる環境も変化しています。スタッフの専門性や特技も生かしつつ、保護者への適切な情報提供ができるようにしていきたいと思ひます。講座の実施や来館者に役立つ情報を提供しながら、来館者に寄り添って、よりよい子育てについてみんなで考えて行きたいと思ひます。0-3の安定した運営のため、施設の安全管理と、出張ひろばの実施場所の検討、スタッフの補充についても引き続き計画的に考えていきたいと思ひます。これからも来館者の声を聞きながら、地域に根差した活動や保護者の方にも子育て力・地域力を持ていただけるような0-3独自の取り組みを考えていきたいと思ひます。

【活動の目的】

0～3歳くらいまでの子どもと保護者が自由に遊びに来られる場として、無料開放し、以下の取り組みを中心に子育て支援事業を行う。

- 1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- 2 子育て等に関する相談、援助の実施
- 3 地域の子育て関連情報の提供
- 4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- 5 地域の子育て力を高める取組の実施

施設を飛び出して地域での支援事業を行なう。

【成果】

地域での認知度も少し上がり、音羽川学区の回覧板や口コミ、インスタを見て、利用している方が友達を誘って一緒に来館していただけるようになりました。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問で紹介してもらいました。と来館される方もありました。またパパの登録と来館も増えました。週に3回、無料で楽しめるプログラム（「おはよう体操」や「絵本となかよし」など）を設定する日、有料のベビーマッサージやママワークの日などを織り交ぜながら企画を実施し、同年代の子育てをするママ同士が、ゆっくりほっこりできる場となっていました。0歳児の参加が増え、親子のふれあい・憩いの場になっているのがよかったです。新しく始めた「プレママ企画」の参加者もできてきています。おはよう体操ではみんなで一緒に体操し、企画後のママのおしゃべりタイムを楽しみにされ多くの参加者がありました。「はじめの一步」「育休復帰サポート講座」「安心感の輪講座」などの連続講座でも参加者が集まり、子育てについてゆっくり考え今後の育児に生かす内容を提供出来ました。講座を機会に参加者同士で仲良くなり、その後も交流されている姿が見られています。「ランチタイム」を再開し、「お昼を食べてゆっくり過ごせると」喜んでいただいています。充実事業として現施設だけでなく外部に出かけたり、「ほんわかツアー」を実施して1歳児後半から活発に動き回る子にも場の提供ができました。「ほんわかツアー」からその後もほんわかハウスに遊びに来てくれる方も増えました。

【参加の対象】

年少～小学3年生

【活動の目的】

親から離れ、異年齢のグループで野外活動を通して自然に触れ仲間と共に協力し野外炊事など作る喜びを体験し、家、学校、幼稚園ではない居場所として子どもらしい子ども時代を過ごしてほしいと願って取り組んでいる。

Wampakuclub わんぱくくらぶ

【活動内容】

①ウォーク&ゲット～ハテナ？マンをさがせ？～@勤修寺公会堂（6/8）
地下鉄柳辻駅から勤修寺公会堂に向かって歩く道すがら、ハテナマンを見つけてカードを手に入れ、ゲットしたカードでデザートを作りました。

②川あそび&流しそうめん@小山方面（8/3）
小山の清流に川遊びに出かけました。
お昼ごはんには、みんなで流しそうめんを食べました。

③アウトドアクッキング@みささぎの森（11/9）
みささぎの森の自然の中でいっぱい遊びました。
お昼には、牛乳パックで作るホットドックや炭火でいりんなものを焼いてみんなで食べました。

④やきいも@みささぎの森（2/8）
たき火をして、お芋を焼きました。みんなで一緒にほかほか熱々の焼き芋を食べた後は、みささぎの森で思いっきり遊びました。

2023年から再開しましたが参加者も増え、全回参加される方も多くなり、女子の参加が多かった年でした。
課題としてはスタッフが不足しているため、新たなスタッフ、ボランティアも募集していきたいと考えています。

【感想】

おおまかに春夏秋冬を意識して企画を立て、ボランティアも定着しつつあります。子どもたちも幼稚園繋がりなどで参加者も増え、毎回楽しみにしてくれています。毎回班を決め班で活動、行動すること、役割で分かれることなど、その時々で活動でメリハリをつけるように、スタッフとボランティアがタイムスケジュール等で共有し意識していけたと思っています。小山方面への夏の川あそびと竹での流しそうめんは非日常体験で帰りには子どもたちが少し成長したように感じます。



げんきスポット0-3

【参加の対象】

主に山科区・伏見区醍醐地域の小学校1年生～中学3年生:

@ら～にんぐ(学習)、@らいふ(生活)、@ひろば(余暇)、@ほーむ(家庭訪問型)

主に伏見区醍醐地域の小学生:@だいが(生活・学習・余暇・食材支援)

高校生以上(活動を卒業したメンバー):@たいむ



【活動の目的】

発達課題、不登校、子どもの貧困、ネグレクトなど「困り」を抱え、自信が持てない子どもたちの生活・学習・余暇のサポートに取り組む。年齢の近いサポーターがマンツーマンを中心として関わりながら、子ども1人1人に合ったサポートに取り組むことで、子ども自身が自信を持つことや将来に向けての選択肢が広がることを目的としている。

また、法人内の他の事業に参加したり、本法人以外の団体や地域ともネットワークを作り、子どもたちが安心して過ごせる場所を広げることも目指していく。

【活動内容】

@らいふ→平日の15時～21時に実施

@ら～にんぐ→平日の週1回120分程度で実施

@ほーむ→利用者の希望日程(週1回90分程度)で実施

@ひろば→月に1回程度実施

@たいむ→のびのびの活動、地域イベント等でのボランティア活動/同窓会

@だいが→平日15時～19時、宿泊活動も実施

・中学生勉強会(委託事業)→毎週月曜日・火曜日・木曜日実施

・専門家が入ったサポーター向けの「ふりかえり会」の実施

・保護者面談

・ケース会議参加



学習サポートのびのび

【成果】

・一緒にゲームで遊んだり、ごはんを食べたりしながら雑談する中で、学校や家庭でのしんどさを吐き出し、日々を過ごしていくためのエネルギーを蓄える場を作ることができた。子どもたちの「やりたい」気持ちを大切に、工作や調理などの活動も取り入れることで、「できた」という達成感や、「楽しい、またやりたい」というポジティブな経験を味わうことができ、子どもたちの自信につながったと感じる。

・また、他団体との合同ふりかえり会を実施し、いつもとは違った視点で子どもたちのことについて考え、サポーターの学びを深め、活動に還元することができた。地域のお祭りや交流会などにも参加し、他団体とのつながりを途絶えさせないとともに、地域で子どもが安心して過ごせるような土台作りを継続できた。

【感想】

今年度は、活動の時間や場所を変更して実施したものもあったが、「子どもとともに作る」という部分を特に意識して、よりよい活動の形を模索した。高校生から社会人まで多くのサポーターに活動に関わってもらい、子どもたちに多様な大人の姿を見せることができたり、固定化してしまっていた活動に変化を生ませることができたりした。制度や時間などの制限に悩まされながらも、自分たちのできるベストを考え、子どもに寄り添えるよう試行錯誤した。来年度も、子どもが自分らしく過ごせ、少しでもこれから生き抜くための選択肢を広げられるような、楽しい活動にできればいいと思う。



食材支援

food aid

【活動の概要】

昨年度に引き続き、経済的に困窮している家庭だけでなく、コロナ禍で家計が切迫した家庭なども対象に食材、衛生用品、日用品の支援を継続的に行ないました。活動に来ている子どもへの手渡し、郵送、フードパントリーなどの様々な方法により、多くのご家庭に支援することができました。



【ご支援いただきありがとうございます】

食材、衛生用品、日用品、衣類の支援を実施するにあたり、以下の助成金、寄付金、物品寄付を活用させていただきました。ご支援いただきありがとうございました。

・近畿ろうきん 社会貢献預金「笑顔プラス」

・公益財団法人京都地域創造基金「事業指定寄付」

・認定NPO法人おてらおやつクラブ お菓子、食材、物品寄付

・こども食堂サポートセンター(運営:一般 社団法人全国食支援活動協力会)

餃子の王将「お子様弁当」

・その他、個人の方多数

Activity report

活動
レポ



活動 ピックアップ レポート

(2025年3月～2025年5月)

4/27 (日) こどもフェスタ 2025 45×25 周年 SP 開催



宝さがしや輪投げなどのいつもの遊びコーナーや
ピッコリーナさんによる演奏会もありました

4/27 (日) に山科青少年活動センターにて「こどもフェスタ 2025 45×25 周年 SP」を開催しました。12 月に「こどもフェスタ 2024」を開催したばかりですが、コロナ禍前までは春に開催していたということもあり、今回、いつも通りのフェスタを開催しようということと、前身団体から 45 年、法人化してから 25 年という記念周年事業の 1 つ目の企画としようということで 4 月の開催にいたりしました。開催日当日は天気もよく、遊びやすい一日となり、子どもから大人まで 100 名を越える方が参加してくれました。お手伝いをいただいたスタッフと合わせると、150 名ほどのイベントとなりました。ご参加いただきありがとうございました。

今年度のこどもフェスタも、子どもたちが一日無料で遊ぶことを大事にしてきました。その主旨に賛同いただいた個人の方、数名から協賛いただき、こどもフェスタ開催の費用とさせていただきます。ありがとうございました。



45×25 周年企画のお部屋で懐かしのスライドショーを見るスタッフの親子



ハヤシライスに炭酸モモゼリー、ポップコーンの販売も。これで 200 円



前回好評だった「かきくるカー」さんの工作室
自由に絵を描いたり、工作したりしました



こどもフェスタ 2025
特設ページはコチラ

5/18 (日) 第 27 年度通常総会開催

事業
報告

5/18 (日) に本願寺山科別院 (西御坊) の多目的会館にて、山科醍醐こどものひろば「第 27 年度通常総会」が開催されました。以前のように、多くの方の参加とはなりませんでした。正会員、理事、監事、オブザーバーからの参加となりました。

議案では議事録署名人の選出に始まり、法人事業報告、決算報告、事業計画、予算、役員選出がそれぞれ報告、提案され、審議されました。理事長から提案された全ての議題は満場一致で可決決定されました。各議題の中で行なわれた質疑応答では、新規委託事業である「ゆうすぺす」について、45×25 周年事業についてのなどの質疑がありました。

「ゆうすぺす」については、委託経緯、事業内容、運営方法などを説明させていただきました。45×25 周年事業については、こどもフェスタに始まり、今後検討している企画内容である、ひろばクイズや、インタビューを説明させていただき、これまでの成果を書籍や WEB メディアなどに残すことを提案いただきました。

審議が全て終了した後は、参加者で集合写真を撮影し、解散となりました。

※第 26 年度事業報告、決算、第 27 年度事業計画、予算は、法人ホームページにアクセスいただき、団体詳細情報よりご覧いただけます。



5/22 近畿ろうきん「推しの NPO」に選定されました

社会貢献預金 (笑顔プラス) でご支援いただいている、近畿ろうきんで「推しの NPO プロジェクト」という取組が始まりました。

～推しの NPO プロジェクトとは～

当金庫では、営業店ごとに「ろうきん」の推進活動を具体的に進める「店推進委員会」があります。店推進委員会は、当金庫に出資加入する各会員労働組合から選出された推進委員で構成する組織です。「推しの NPO プロジェクト」は、営業店・店推進委員会が、自分たちの地域で子ども・子育て支援活動を行う NPO の中から、目的や活動内容に共感できる「推しの NPO」 (= 応援・推したい NPO) を選出し、年に一度寄付を行うものとなります。近畿労働金庫 2 府 4 県の 50 支店、1 出張所がそれぞれの「推し」を支援している。



多くの団体がある中で山科醍醐こどものひろばが、近畿ろうきん京都支店の押しの NPO に選出されました。ありがとうございます。ラジオカフェ「KYOTO SOCIAL WAVE」でもお話しさせていただいていますので、お時間のある方はお聞きください。



コッペパン 192 号より



活動 ピックアップ レポート

(2025年6月～2025年8月)

8/30 山科醍醐こどものひろばシンポジウム
「再考 子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのない町」開催

8/30 (土) アスニー山科実習室にて、シンポジウム「再考 子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち」を開催しました。

講師に一般社団法人タウンスペース WAKWAK の業務執行理事兼事務局長の岡本工介氏をお招きして、「貧困とひとりぼっちのない町を考える」というテーマで基調講演を行っていただきました。

その後、岡本氏と前職員であり現在、理事も務めていただいている梅原美野氏を交えてのトークセッションを行いました。梅原さんは豊中市の児童相談所の立ち上げにも関わっており、その経験も踏まえてのお話しもしていただきました。

進行は相談役の村井琢哉氏がを行い、

テーマ1「まちの『貧困対策』を解剖する」
テーマ2「なぜ未だ子どもの貧困が解決しないのか」
テーマ3『ひとりぼっち』をなくすには」

というテーマを切り口に、お三方によるトークセッションが進みました。

アフターセッションとして、質疑応答や参加者からの意見をいただき、「ひとりぼっちではない状態とはどのようなことを指すのか」や「おとなのひとりぼっちはどうする？」というひとりぼっちのいないまちをつくるための質問から、「どうやってリフレッシュしているのか」などの実践者のケアについてまで様々な質問がでました。全てにお応えできる時間はなかったため、アスターセッション後も延長線まで行い多くの質問にお応えいただきました。



基調講演では地域実践のお話をしていただきました。



アフターセッションでいただいた、質問、ご意見（要約しています）

- ・「施設につなぐこと」が子どもの幸せになるときとならないときについて
- ・これからの教員、公務員に求められることは
- ・一時保護所は見学できるのか
- ・社会的不利を受けやすい層とは具体的にどの層か



基調講演のグラレコ



トークセッションのグラレコ



8/23 ファミリーデイキャンプ開催

この夏、大森リゾートキャンプ場をお借りしてキャンプの企画を行いました！

子どもは、8ヶ月の子から、中学生の子まで10人ほど、スタッフや大人の参加者も含めると20人以上が参加してくださり、とても楽しい時間となりました。

当日は10時から15時までのプログラム。送迎バスや車などで現地まで集合してからのスタートとなりました。まずは名札作りとマス釣り体験！！針の先に食パンをつけて少し待っていると…「くいついた！けど逃げられた！」などだいぶ苦戦しているようでしたが、みなさんなんとか釣れてよかった。その後は、参加者してくれた全体での自己紹介をして、メインイベントのBBQ！その間、すこし体調悪くしてしまう子がいるなどアクシデントもありましたが、無事体調も回復し、釣ったマスやキャンプ場の用意してくださった食材などを焼いて食べて、楽しむ時間を持てました。11時過ぎにスタートしたBBQを楽しんだ後、次のプログラムであるチューペットタイムまでは2時間弱のフリータイムがありました。当日予定では、この時間に親同士での交流の時間や、遊びの企画、レクリエーションなど考えていたのですが、ここはシミュレーション不足！！流れのままに川遊びの流れになっていき、それぞれにキャンプ場のアクティビティを楽しむなど全体へのアナウンスやシミュレーションは反省でしたが、その川遊びが本当に楽しかった！綺麗な川で暑い夏の日に入る川遊びは、大人も子どもも気持ちいい最高の思い出になったのではないかと思います。中には魚を捕まえる子まで！そんな川遊びにも飽きてきた頃、キャンプ場のスタンプラリーをアナウンスして行い、最後にチューペットを食べて終了という流れでした。

帰りのバスの中では、隣の子はすやすや、後ろの子は持っているものを落としながら爆睡、後ろの方に座っていた子も、最初はおしゃべりしていたのが聞こえていたのに、いつの間にかすやすや。体力使い切るまで遊んでくれたんだね、楽しい夏の思い出になったかな



45×25 周年事業のイベントページ公開中

45×25 周年事業期間ですが、イベントの特設ページを作成、公開しました。ホームページ上部のバナーからご覧いただけます。

現在のイベントページには、

- ・こどもフェスタ2025の報告
- ・ひろばクイズにチャレンジ
- ・コッペパンコラム集「こどもと共に育つ」バックナンバー
- ・こどものひろば25周年史

を公開中です。

ひろばクイズは2023年のクリスマス会で行なったものを改定したものです。全部で50問。正解者トップの方には賞品あり！ぜひチャレンジしてみてください。

コラム集「こどもと共に育つ」はコッペパン180号から連載しているもののバックナンバーです。普段は会員さん限定の公開となっておりますが、周年事業期間中はコチラのページで前号までのコラムをご覧いただけます。



アクセスはコチラから



特設ページはコチラのバナーを目印に！



活動 ピックアップ レポート

(2025年9月～2025年11月)

10/4 (土) くりのみまつりに参加しました

10/4 (土) にくりのみ保育園で開催された「くりのみまつり」に参加しました。当日はフリーマーケットとダンボール積みの遊びコーナーを出店しました。フリマではぬいぐるみや洋服だけでなく、遊びに来た子どもが喜ぶと思い、ハロウィン仕様の光る指輪を 50 セット用意しましたが、1 家族で何個も買われるほど好評で、あっという間に完売しました。毎年くりのみまつりには参加していますが、地域に根付いた大人も子どもも楽しめるイベントだと思います。くりのみ保育園とはごはん会を開催した 2016 年より、様々なイベントで一緒にしています。コロナ禍となり、ごはん会は開催できなくなりましたが、今回のようにおまつりに参加したり、子どものケースで連携をしたりと、これからも地域の子どもたちと一緒に見守っていければと思います。



くりのみ保育園は、現在築 50 年となる園舎の建て替えを行なうための寄付を募集しております。詳細については、くりのみ保育園のホームページをご確認ください。



くりのみ保育園 HP

11/2 (日) やませいフェスタに参加

11/2 (日) に今年も開催された地域イベント「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」の中で山科青少年活動センターが実施する「やませいフェスタ 2025」に参加し、スーパーボールすくいのお店を出店しました。

肌寒くなってきた 11 月でしたが、当日はお天気も良くてたくさんの来場者にあふれ、こどものひろばのブースも多くの子どもたちでにぎわいました。毎年恒例となっておりますが、出店したスーパーボールすくいのコーナーでは、普段こどものひろばの活動



に参加している子どもに 1 日子ども店長をお任せしております。当日の準備を行ない、遊び方を決め、来場したお客さんへの説明と案内、取ったスーパーボールの袋詰め、売り上げ計算まで、店長として主体的にブース運営をしてもらいます。お客に楽しんでもらうことや、売上に貢献することでの達成感など、普段出来ない経験をしてもらうことで、小さくても成功体験、社会体験を積み重ねていってほしいと思います。

10/26 (日) ピッコリーナ 25 周年記念コンサート

山科醍醐こどものひろばと一緒に、リコーダーアンサンブル「ピッコリーナ」も 25 周年を迎えたため、25 周年を記念したコンサートが 10/26 (日) に開催されました。会場は四ノ宮にある彩工房さんが運営する「sai GALLERY Fable (フェイブル)」での開催でした。開催当日は雨となり



ましたが、会場の雰囲気ともとても合っていて、しっとりとして、落ち着いた時間の流れるコンサートとなりました。25 年前に、こどものひろばのひとつのサークルとして誕生したピッコリーナさん。これまでも、「こどもフェスタ」や「げんきスポット 0-3」などで、様々な機会演奏会をしてもらっておりますが、こどものひろばだけではなく、小学校や福祉施設、地域イベントなどでも演奏会をされております。そんなこれまでの歩みとともに選曲された演奏を聴きながら、多くの方がとてもよい時間を過ごしていたかと思います。



45×25 周年事業のお知らせ

45×25 周年事業の特設ページを公開しております。ホームページ上部のバナーからご覧いただけます。

現在のイベントページには、

- ①こどもフェスタ 2025 の報告
 - ②ひろばクイズにチャレンジ (12/12 まで)
 - ③コッペパンコラム集「こどもと共に育つ」バックナンバーの公開
 - ④ひろばインタビュー
 - ⑤JAMMIN 第 3 弾コラボチャリティーTシャツの販売 (12/8～12/14 まで)
 - ⑥冬のひろば交流会 (12/7 開催)
 - ⑦こどものひろば 25 周年史
- を公開中です。

コッペパン 194 号が発行された現在、周年事業は第 6 弾まで公開されております。

期間限定のイベントもありますので、お見逃しがないように、特設ページをご確認ください。



今回のコラボデザインは背景も立場も気にせず同じ人間として生き生きと過ごす時をイメージされています



特設ページはコチラ



活動ピックアップレポート

(2025年12月～2026年2月)

12/7 (日) 冬のひろば交流会を開催しました

45×25 周年事業の第 6 弾として、12/7(日)13 時～16 時、げんきスポット 0-3 にて冬のひろば交流会を開催しました。冬のイベントといえばクリスマス会でしたが、今回は同窓会の様な会にしたいと思い、ひろば交流会としました。

13 時から朱さんのお茶会ということで、朱さんにお抹茶を点てもらいました。現在の音羽乙出町にげんきスポット 0-3 が移転した時の 1 番最初の企画として、同じ様に朱さんのお茶会を開催しました。朱さんへのひろばインタビューをしながら、このことを思い出し、周年事業にはこれしかないと思い、今回お願いをしました。お茶会といえば作法などもあり堅いイメージもありますが、子どもと同席しながらお抹茶を飲める空間がひろばらしいと思います。

14 時からピッコリーナさんによる演奏会でした。ひろばと同じく 25 周年を迎えたピッコリーナさんに演奏会をしてもらいました。これまでも、「こどもフェスタ」や「げんきスポット 0-3」などで演奏してもらっていますが、子どもから大人までが楽しめる企画といえばピッコリーナさんの演奏会。今回もジブリやディズニーなど、子どもから大人まで楽しめる楽曲が演奏されました。

14 時半からはおやつ休憩をしながら、お菓子とお茶を片手に、こどものひろばの 25 年を振り返るスライドショーを上演しました。2014 年、2023 年に開催したクリスマス会でのスライドショーを今回用にアップデートして上演しました。若いなーとか痩せてるやんとか、パパや！おばあちゃんや！などの参加者の声があり、当時を懐かしむスタッフと新たな世代の声が入り交じる時間でした。

15 時からスタッフによる、子どもたちの遊びの時間。参加した子どもと保護者、スタッフと一緒にカラダを動かす遊びをしました。協力して新聞の上に乗ったり、風船を落とさずにリレーのように走ったりと、決して広い空間ではありませんが、そのなかで思いっきり遊びました。

最後に記念撮影をして、冬のひろば交流会は終了しました。こどもフェスタの集合写真とはまた違った交流会ならではの写真です。本当に、様々な世代が参加する交流会となりました。ご参加いただきありがとうございました。



12/8 (月) から JAMMIN コラボ T シャツ販売

45×25 周年事業の第 5 弾として JAMMIN さんとの 3 回目となりコラボ T シャツの販売が 12/8 から 12/14 までの 1 週間限定で開催されました。今回のデザインのテーマは大人から子どもまで、地域のいろいろな人が集まる楽しいお祭り「こどもフェスタ」をイメージして制作されたデザインです。それぞれが心地よく、思い切り楽しめる空間を、抜け感のあるポップなタッチで表現されています。また小さく「45×25 周年」お祝いデザインも入っています。

今回コラボをするにあたり、周年事業をお祝いできることと、設立総会が開催された 12/12 を含みたいということをお伝えし、急遽コラボが決定しました。そして不思議な縁もあり 12/12 の設立総会の日と同じ日の京都新聞の朝刊に今回のコラボに関する記事が掲載されました。まだご覧いただいていない方はオンラインからお読みいただけます。45×25 周年事業の特設ページに今回のコラボに関する理事長へのインタビューもリンクが貼ってありますので、京都新聞の記事と合わせてご覧いただけます。

そして今回のチャリティー金額は 64,170 円となりました。ご購入いただきありがとうございます。この 1 週間での購入を逃してしまったという方は、事務所にまだ在庫が少しありますので、ご相談ください。



京都新聞にも大きく掲載されました

2/16 (月) 寄付キャンペーンに取り組みました 祝 note 開設

2 月 16 日から 3 月 1 日までの 2 週間、山科醍醐こどものひろばでは「子どもの貧困対策事業」を継続していくための寄付キャンペーンに取り組みました。年度末まで残りわずかとなるタイミングで、2026 年度も切れ目なく活動をするためには、どうしても資金が心もとなく、目標金額を 100 万円として呼びかけを行いました。この寄付キャンペーンに合わせて note を開設して、活動を発信してみたり、これまでの思いを言語化してみたりと発信に取り組んできました。また、理事や元職員、ボランティアなど様々な方に「ひろばと私」というテーマでご寄稿いただきました。大変多くの方にお読みいただき、ご支援につながりました。

今回取り組んだ寄付キャンペーンの結果は **26 件・合計 353,200 円**となりました。ありがとうございます。

寄付キャンペーンは終了いたしました。引き続きご寄付を募集しております。年度末までに 100 万を達成できればと思いますので、温かいご支援をよろしくお願いいたします。



note はこちらから

Support

わたしたちの活動は、みなさまの応援・ご支援によって成り立っています。
いろいろなカタチの応援があります。ぜひ一緒に、地域の子どもたちの成長を見守っていきませんか？

一緒に活動をつくって応援

ボランティア	ボランティアご希望の方には当団体の説明会を行います - 各活動部で、企画運営・子どもたちの活動をサポートするスタッフ - 事務局業務をサポートするスタッフ など
会員	会費：年払い16,000円以上、または半年払い13,000円以上（+初回のみ入会金500円） - 当団体へ直接持ち込み - 郵便振替 ※口座は左下参照 - クレジットカード決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS) ※ホームページから手続きできます ページURL: https://congrant.com/project/kodohiro/7080
支援会員	会費：個人支援会員は年払い13,000円以上 団体支援会員は年払い15,000円以上 - 当団体へ直接持ち込み - 郵便振替 ※口座は左下参照 - クレジットカード決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS) ※ホームページから手続きできます ページURL: https://congrant.com/project/kodohiro/7080

物品寄付で応援

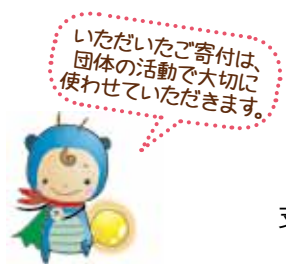
古本・CD・DVD	- 当団体へ直接持ち込み ※お近くの場合、取りに伺うこともできます - ご自宅や職場からチャリボンへ送る（申込後、宅配業者が集荷に来ます。送料無料） http://www.charibon.jp/partner/yamashita/ ※寄付先は山科醍醐こどものひろばを選択
食品・文具など	当団体へお持ち込み ※お近くの場合、取りに伺うこともできます

資金寄付で応援

団体へ直接寄付 ※1口3,000円から	- 当団体へ直接持ち込み - 郵便振替 ※口座は左下参照 - 銀行振込 ※口座は左下参照
京都地域創造基金を通じて ※100円から ※税制優遇措置の対象 ※当団体でも振込用紙をお渡しできます ※継続寄付のお申込ができるようになりました	- 郵便振替 口座記号番号：00930-4-312262 加入者名：京都地域創造基金寄付口座 通信欄：必ず寄付事業名「子どもの貧困対策事業」と記載 - 銀行振込（当団体の事業への寄付専用口座） 京都信用金庫 本店（普） 口座番号：2027687 口座名義：公益財団法人京都地域創造基金 - クレジットカード決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS/Discover) 地域創造基金URL: http://www.plus-social.jp/project.cgi?pjid=11

当団体の口座

- 郵便振替 口座記号番号：00990-1-47656
加入者名：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば
 - 銀行振込 京都信用金庫 店番号：052 口座番号：0498523
口座名義：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば
- お問い合わせは電話・メールでお気軽に。ホームページも見てね！



支援一覧はコチラ

支援のお願い

Access

アクセス



★ NPO法人 山科醍醐こどものひろば 山科事務所

〒607-8072
京都市山科区音羽伊勢宿町33-77
075-591-0877
平日 13:00～17:00

★ NPO法人 山科醍醐こどものひろば げんきスポット0-3

〒607-8074
京都市山科区音羽乙出町14
075-634-9242
火～土 10:00～16:00

★ NPO法人 山科醍醐こどものひろば 醍醐事務所

〒601-1462
京都市伏見区小栗栖森本町20-22
075-202-9419
開館日は不定期

※掲載の各情報は、2026年8月1日現在のものです。

Contact

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

- ✉ kodohiro@gmail.com
- 🌐 <https://www.kodohiro.com/>
- 📖 <https://blog.canpan.info/kodohiro/>
- 📘 <https://www.facebook.com/kodohiro/>
- 📷 @kodohiro_yamashina.daigo
- 📄 <https://note.com/kodohiro>

お問い合わせ